

## 神津牧場、相沢奥壁大氷柱アイス

期間：2010年2月6~7日

メンバー：L河崎、齊藤（記）、杉山（AC横浜）

西上州はアイスに限らず、踏み入れた事の無い山域であった為、より楽しみな山行であった。当日の天気予報は太平洋側では晴天と有り、青空の下でのクライミングを期待したが、

2/5 夜 上信越道の下仁田 I/C を目指し、伊勢原の自宅を出発する。馴染みの無い場所なので、どの位、時間が掛かるのだろうか？と思ったが、予想以上に早い約3時間で、前夜泊地の荒船湖に着く事が出来た。風雪がテントを叩く中、入山祝いも程々にシュラフにもぐる。

2/6 遅めの起床の後、神津牧場の氷瀑群へと向かう。神津牧場へと続く細い林道を、「屋敷」集落を越え、「氷瀑群」と書かれた小さな看板の近くに車を止め、準備を整える。目印に導かれ樹林帯へと入って行く。川へと下る急な尾根はかなり歩きづらい。20分のアプローチでインディアンサマー広場と呼ばれるエリアに到着する。右にアパッチと左にシャイアンという2本の氷瀑が並んでいるが、いずれも発達具合は今一といったところだ。



アパッチ

まずは杉山さんのリードでアパッチにトップロープを架けてもらう。午前中は皆でトップロープでのムーブの確認をする。天気の方は期待と裏腹に、時折吹雪きかなり寒い。最後にシャイアン登っているパーティーと交代してトップロープ借り、登らせてもらう。休憩後「右エリア」へと移動する。このエリアへ来るとちょうど風の流れの影になり、先程とは別世界のように穏やかであった。「入門砦」と呼ばれる10m程の易しい氷を越え「ナバホ」に着く。



3人が1回ずつリードで登る。短い傾斜が立っていて緊張してしまうが、それが心地良い。帰りは本流沿いを上流に向かいトラバースしてから対岸に渡り直登すると、車を置いた場所にドンピシャで出る事が出来た。夜は「荒船の湯」で一日の疲れを癒す。

2/7 朝、目を覚ますと前日の風が嘘のように無風快晴だ。ベストなクライミングが出来る事を期待する。7:45 荒船山の登山口を出発する。暫くすると左対岸斜面の奥に「相沢奥壁大氷柱」の堂々とした姿が見え始める。遠望しただけでも、その迫力に怖気づいてしまう。その左には3段100mの「エイプリルフルの滝」の白く細い筋がはっきり見てとれる。登山道の「荒船山70分、相沢30分」の標識の付近を左に入る。目印の赤布を頼りに進む。最後は沢を詰めると氷瀑が目前に現れる。9:00 2時間半の歩きで相沢奥壁大氷柱に到着する。この滝は右から取り付き70度程の部分を15m程登ると核心の長い垂直部分が始まる。そこを直登後、弱点を突いて左上バンドを辿り終了点である太い木まで登る。核心

部である垂直部分の氷が見るからに悪そう。9:45 河崎さんのリードで登攀を開始する。



相沢奥壁大氷柱を登る河崎さん

約1時間の格闘の終了点に到着する。50mダブルのロープはぴったりいっぱいまで伸びてしまった。いつもながら河崎さんのファイトには頭が下がる。10:55 河崎さんの「どうぞっ」の声で私が登り始める。少し間を置いて杉山さんも登り始める。出だしの傾斜の緩い部分を登り終え、核心部に辿り付く。取り付くと下からみていた以上に立っている。氷は硬く、ツララの集合体から発達したのだから表面は穴ぼこだらけで登りづらい。アックスの打ち込みが効かず、フッキングだけの登りが強いられる。グラグラと動くアックスが外れないかと祈りながら、体を上げて行く。「河崎さんはよくもこんな所リードしたな」と思いながら、何とか終了点へと着いた。11:40 後発の杉山さんが終了点に着き、約2時間で3人の登攀が終了する。懸垂で下に下りると、12:05 と昼を回っていた。当初の予定では、この後「エイプリルフルの滝」も少し登る予定でいたが、3人共もう満腹状態

で、見学だけに済ませておこうと決まる。休憩の後、左の尾根を回りこみ、「エイプリルフールの滝」へ向かうと、後から登って来たパーティーの人達が「エイプリルフールの滝、左」にトップロープを架け、練習をしていた。話を聞くと「風来坊」と「トマの風」混合の精鋭達だと知る。このエリアは足場も良く、開けて明るい事もあり、練習にはもってこいの場所だと思った。帰りは「風来坊」、「トマの風」パーティーの人に教えてもらった、アプローチルートを踏み後を辿り行くと、かなり早く登山道に出る事が出来、登山口までたったの 35 分で戻る事が出来た。次からのアプローチは登山道を祠のある大岩を少し越えた、「荒船山登山道」の標識の所から左にトラバースして行くのがいいだろう。「相沢奥壁エリア」は日帰りも可能で静かで充実したクライミングが出来るエリアだと思った。